

百人一首カルタ「セレクト 20」を用いた実践的国語授業研究

2019. 1. 24

和歌山大学 菊川恵三

【ねらいと背景】

この事業は、和歌山大学国語教室で開発した百人一首カルタ「セレクト 20」を、実際の学校現場で学部学生と現職教員が協力して進めることを考えた。現場教員にとっては、カルタを使った新しい国語科授業の経験、学部学生にとっては教育実習のような指導を受ける立場ではなく、教員と協働作業をすることで、教育実践力の向上に役立てることにある。

【実施状況】

本年度の参加校と実施状況は以下に一覧表にして示した。

平成 30 年度百人一首カルタ実践校一覧（\*は実践的地域連携研究）

|   | 学<br>校           | 担当教諭<br>学年・クラス                   | 担当学生                     | 実施日時と内容                                       | 特徴・反省  |
|---|------------------|----------------------------------|--------------------------|---|--|
| 1 | 附<br>属<br>小      | 3B 中岡先生<br>3C 武友先生<br>2 クラス      | 金谷・贅川<br>山口              | ① 12/5 カルタ制作<br>② 12/19 色紙作り                  | クラス対抗はなし                                       |
| 2 | 藤<br>戸<br>台<br>小 | 3 年生 5 クラス<br>藤田菜摘先生             | 北口・名郷根<br>+ 3 回生         | ① 11/6 カルタ制作<br>② 11/12 色紙作り<br>③ 11/29 カルタ大会 | ①は大学の小学校教科「国語」の学生が参観。<br>5 クラス同時なので学生の数と用意が大変。 |
| 3 | 高<br>松<br>小      | 3 年 3 クラス<br>4 年 3 クラス<br>辻本貴大先生 | 名郷根、北<br>口、井上+国<br>語 3 回 | ① 12/6 カルタ制作<br>② 12/13 色紙作り<br>③ 1/24 カルタ大会  | 3 年はセレクト 20。4 年はセレクト 40。<br>3. 4 年合同のカルタ大会で交流  |
| 4 | *<br>浜<br>の<br>宮 | 4 年 3 クラス                        | 金谷+                      | ① 1/16 カルタ制作<br>② 1/23 色紙作り<br>③ 1/30 カルタ大会   |  |

|   |      |                   |                 |   |                             |
|---|------|-------------------|-----------------|---|-----------------------------|
| 5 | 吉備中学 | 三木由起子先生<br>3年5クラス | 北口・名郷根<br>+3回4名 | 1/17  | 百人一首から高校古典へのつながりの授業を5クラスで実施 |
| 6 | 和歌山北 | 野口勇太先生<br>2クラス    | 4回生+3回生         | 5/1、5/31、6/12、10/11、<br>10/25、11/8、11/22、<br>12/6、1/17、2/14、2/21、 | 放課後学習指導<br>古典文法             |

(注)「浜宮小」は連携事業締切ののちに要請があり参加した。

○参加校

小学校3校、中学校1校、高校1校

○クラス数と児童・生徒数

小学校13クラス 約400人 中学5クラス 150人、高校7人

○学生参加者

菊川ゼミ 4回生2名、3回生4名

**【カルタの実践授業から】**

昨年は小学校5校20クラス、中学1校5クラス、高校1クラスの参加者（児童・生徒）700名だったので、今年は若干減少した。これは参加学生に負担がかかりすぎたのを反省して、小学校をしぼったことによる。

小学校では「①カルタ+カルタ制作 ②色紙作り ③クラス対抗カルタ大会」の三点セットのプログラム（3日合計6時間）が定着し、安定的に進めることができた。

次に、各学校の取組みの特徴を報告する。

○附属小学校

附属小学校は、各教員の独自性が強いので、学年全体でまとまってカルタ大会を開催したことはない。ただ、3Cは児童が百人一首の本を全員持参し、色紙を作る際にも歌の意味をあれこれ考えながら進めるなど、先生の力が入っていることがわかる。

○藤戸台小学校

3年生の11月に「百人一首カルタ」が定着している。最後のクラス対抗カルタ大会は、学校開放月間に実施しており、30人ほどの保護者が参加して体育館で実施した。藤戸台小学校の特徴は、大学の小学校教科「国語」と連動させて、大学生が①の授業参観することである。百人一首カルタについての講義に続き、それを実際におこなう場合、どのような

問題が起こるのか、実際に参観できるのはまさに実践的授業研究に相応しい。この授業を受講した学生が、この学校にも勤務しており、良い循環ができています。

### ○高松小学校

高松小学校では、3年、4年の教員集団が協力して対抗戦を実施している。今年は3年目ですっかり定着したといえる。異学年でも力が拮抗するように、グループ分けに工夫するなど、細かな努力を怠らない。決勝戦が3年3人、4年3人になったのも、それゆえだろう。

また、昨年度セレクト20を経験した3年生は、今年4年になりセレクト40を実施し、歌数を増やし、2年間を見通したプログラムになっている。

また、カルタ大会には「交流戦」という、勝敗ではなく、参加の保護者や先生・異学年との交流を主にしたカルタがあり、参加者がそれぞれ楽しめるイベントになっている。

### ○有田川町立吉備中学

今年の吉備中学は、三木先生が授業でカルタを実施していることを受け、「高校につながる授業を3年生に」とのテーマで、1月17日に実施した。5クラスに、5人の大学生を当て、カルタとその後の発展の授業を考えた。学生は、ゼミの時間に各自の工夫を持ち寄り相談したうえで、当日の授業に臨んだ。うまくいった点、そうでない点、さまざまだが中学生と大学生の貴重な交流の場になった。

### ○県立和歌山北高校

本学卒業生である野口勇太先生の勤務する和歌山北高校から、共同の依頼があった。高校で、大学入試を目指した補習授業という願いがあり、カルタではなく古典文法を教えた。2、3学期を中心に放課後希望者を集めて実施した。当初、6、7人で始まったが、最後まで続いたのは2人と寂しい結果になった。ただ、参加者の2年生女子は、「文法力は大学2回生よりも上だと思います」と学生の報告があり、成果はあったと思う。次はこれをどのように広げていくか、工夫したい。

### 【学生の成長の観点から】

現場教員と協力するだけでなく、学生を積極的に授業に出すことで、自分の授業としてしっかり準備するとともに、現職教員との打ち合わせなどを通して教員としてコミュニケーション力を磨く。

上記のねらいを持って、学生昨年同様、「3回生が中心、4回生はバックアップ」の体制

でのぞんだ。一人5～6回、小・中・高の違った校種で多数の経験をつむことで、「すっかり慣れました」という頼もしい声を聞く。教育実習と違い、自分たちが熟知した百人一首教材で授業をすることで、確かな手ごたえを感じているようだ。

各校の教員と打ち合わせを行い実施に向けて準備することで、教員としての自覚と責任の芽が育っていることを感じる。このゼミ生から、今年も和歌山高校国語（院生）、大阪高校国語（学部生）の現役合格を含め、3名の中高教員を輩出できた。この学生たちが、教員となり一緒に共同研究を進めることができるようになるのを願っている。

以上